

第 66 回 神奈川建築コンクール 一般建築物部門最優秀作品選評
「川崎市役所本庁舎」

審査委員：鈴木 信弘

川崎市役所本庁舎は、市街地における「環境」と「防災」性能を備えた都市型防災庁舎として高い得票を得た。

環境面では高層棟ファサードに特徴が見られる。窓が小さく抑えられている外装はコンクリートの素材を活かした多様な表面仕上げとなっており、外装側面スリットの彫りの深さは外気給気口であり換気ボイドとなっている。最上階のガラスボックスが太陽光で暖められて煙突効果を生み出し、重力換気を助長する仕掛けは超高層建築でありながら、騒音や風速などの周辺環境に影響されずに安定した自然換気を可能にしている。外装と環境技術との融合が実現したこと、超高層建築での自然換気の導入を可能にしたこともあり CASBEE での S ランクを取得、複合的な施設機能でありながら BEI=0.47 (ZEB Ready) という高い環境配慮性能を確保している。

次に防災性能に配慮した BCP 庁舎となっていることも特徴である。停電時には本庁舎最大使用電力の約 9 割を都市ガス利用の非常用発電機とコージェネレーションシステムによってバックアップ。加えて都市ガスが途絶した場合でも備蓄燃料にて 7 日間業務継続が可能なインフラを有している。多摩川の浸水被害を受けないよう中間階免震構造を選択したり、地震時に天井材落下の恐れがない無天井の執務空間を採用したりと計画一貫性を有している。特筆すべきは低層部に会議室群を配置することで災害時に支援拠点の受け皿となるように設定しているがこの諸室群が、旧庁舎と新庁舎をつなぐアトリウム空間を中心に展開している。アトリウムは 2 つの鉄道駅からの交差部に配置することで、街の活気がスムーズに流れ込むように設計されており、半外部空間の交流スペースとなっていることから庁舎への親しみが湧くであろう。なお週末も公開している川崎市を全望できる屋上回廊テラスは必見である。市民の新しい楽しみの場所としてかなり魅力的である。